

令和3年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
管理機関名 東京都教育委員会  
代表者名 教育長 藤田 裕司

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年5月25日(契約締結日)～ 令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 東京都立八丈高等学校  
学校長名 佐藤 俊一  
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

八丈 やろごんプロジェクト

4 研究開発概要

「八丈島の未来のための課題とその解決策を考え、実践する人材を育成する」

〔八丈学Ⅰ（1年次）〕

一学期に八丈島の自然、歴史、文化、産業に関する講義を通して、八丈島に関する理解を深めるとともに、島の価値や魅力を見い出す学習を行った。その後フェノロジーカレンダーの作成を通して、八丈島の地域課題に気づかせる取組を行った。さらに、二学期末には、ハワイのワイアケア高校とオンラインを通して交流し、八丈島の魅力を発信した。

三学期には、作成したフェノロジーカレンダーを活用して、島内小中学校及び来島した東京都立大学の学生への成果発表、オンラインを通して都内高等学校及び羽村市立小学校への生徒による発表活動を行った。

〔八丈学Ⅱ（2年次）〕

令和3年度実施予定の八丈学Ⅱにおいて、研究開発の集大成となる「地域課題の解決策提案」を狙いとした島民会議を実施予定である。これは、1年次に行った八丈島に関する基礎的な学びを基に、生徒の主権者意識を高めさせながら、地域と学校が一体となって、八丈島の未来について考える場として設定するものである。また、今年度は、八丈学Ⅰにおける学びの現状や今後の課題についてコンソーシアムとともに検討を行った。具体的には、年間計画の作成、島民会議で提案する地域課題の設定と、それに対するコンソーシアムの関わり方、島民会議を実施する上での八丈町との実施日や実施場所の調整を進め、次年度実施への布石とした。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
茂手木 清	八丈町教育委員会（教育長職務代理人）	学校教育に専門的知識を有する者
林 薫	八丈町教育委員会（臨時職員）	学校教育に専門的知識を有する者
大沢 力	製菓やたけ（社長）	地域産業界関係者
長田 隆弘	長田商店（社長）	地域産業界関係者

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
東京都教育委員会	藤田 裕司（教育長）
教育庁八丈出張所	増田 憲治（所長）
東京都立八丈高等学校	佐藤 俊一（校長）
八丈町役場	山下 奉也（町長）
八丈町教育委員会	佐藤 誠（教育長）
八丈支庁	増田 憲治（支庁長）
八丈島観光協会	田村 真吾（事務局長）
八丈町商工会	間仁田 聡（会長）
南海タイムス社	荻田 義之（社長）
八丈島空港ターミナルビル株式会社	吉田 倫久（代表取締役専務）
東海汽船株式会社	山崎 潤一（社長）
東京都立大学総合研究推進機構	柴田 徹（室長）
文教大学地域連携センター	野島 正也（学長）
八丈ビジターセンター	高須 英之（センター長）
フェノロジーカレンダー研究会事務局	田島 幸郎（事務局長）
チーム八丈	畑中 由子（代表）
八丈島エコツアーガイド協会	大類 由里子（副代表）
八丈島移住定住促進協議会	内山 江差夫（会長）

8 カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	増渕 達夫	帝京大学教育学部教育文化学科教授	講師として招聘し謝礼支払い
海外交流アドバイザー			
地域協働学習支援員	佐治 渉	八丈町役場企画財政課	八丈町役場の業務に位置付け

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校視察 学校訪問					3日 ★			8日 ★				
定例会出席 (オンライン)						10日 ★	8, 22, 29日 ★	5, 12, 19日 ★	10, 24日 ★	7, 28日 ★	4日 ★	
コンソーシア ム会議出席									23日 ★			19日 ★

(2) 実績の説明

① 学校視察・学校訪問

a 令和2年8月3日 カリキュラム開発等専門家による訪問

[内容]

島内小中学校視察、八丈町教育委員会訪問、八丈高校授業見学及び生徒・教員との意見交換と指導・助言

[成果]

東京都教育委員会八丈出張所及び八丈町教育委員会の担当者と、今後連携を一層進めていくための役割や方策を具体的に検討することについて共有した。

「八丈学」の授業の計画と実践に苦勞している学校の状況を把握し、島の高校として地域の期待に応える人材を育成できるよう、地域と共に学校のグランドデザインを作成し、学校全体で組織的に「八丈学」の計画・実施ができるよう指導・助言を行った。

b 令和2年11月8日 カリキュラム開発等専門家による訪問

[内容]

成果発表会視察、保護者への事業説明、ワークショップ、運営指導委員会(担当教員による中間総括、八丈学Ⅱの方向性に関する説明)

[成果]

教員は「八丈学」を教えるのではなく、八丈島について生徒自身が主体的に探究できるよう探究の仕方を教えるということを伝えることができ、担当教員の負担感を減らすことができた。また、ワークショップを通じて保護者、地域、学校の「八丈の将来と高校への期待」を共有することができた。今後は、八丈町や八丈町教育委員会、島内小中学校と連携を一層進めるとともに庁内関係部署に対し協力や支援を依頼していく。

島の唯一の高校として地域の期待に応える人材を育成できるよう、学校として一体的に取り組むための組織体制の構築やフェノロジーカレンダーを含む様々なツールを活用した探究活動を計画的に実施できるよう指導・助言を行った。

② 定例会出席(オンライン参加12回)

[内容]

校内体制の構築、発表資料作成、グランドデザインの作成、島外学校との連携について指導・助言を行った。

[成果]

担当教員から直接学校や研究の状況を把握し、適切に指導・助言を行った。

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
八丈島の自然、歴史、文化等地域課題学習			→										
フェノロジーカレンダーの作成及び作成過程での地域課題学習						→							
カレンダーを用いた成果発表活動										→			

### (2) 実績の説明

#### ① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

- a 地域人材の活用により、八丈島の自然、歴史、文化、伝統、産業等を学び、島の価値や魅力について知る学習・6月29日、本校教諭による八丈島の歴史についての講義を実施した。八丈島の創成期の話から、逸話や伝説に関するもの、北条氏によって八丈島が治められたことや、黄八丈等の織物を奉納した中世の歴史、宇喜多秀家が流人として流された時代、第二次世界大戦時の特攻兵器や東光丸の碑、GHQの統治下におかれた時代など幅広く講義を行った。
  - 7月6日から13日までの間に、各クラス2回ずつ八丈ビジターセンターにて、高須英之センター長による講義及びフィールドワークを実施し、八丈島の自然に関する知識を深めた。
  - 7月20日、八丈町教育委員会職員で運営指導委員の茂手木清氏と林薫氏を講師に。ユネスコの消滅危機言語に選定されている「八丈言葉」についての講義を実施。八丈言葉の系譜や価値について知ることで、八丈言葉の大切さを学んだ。また、八丈言葉を使えるようになることで、生徒自身が普及の一端を担うという意識を涵養した。
- b 島の価値や魅力についての学習を基に、八丈島のイベント、動植物、草花、野菜、海産物等の項目ごとに実施月や収穫の時期など季節ごとに分類・整理した。
  - 7月27日、八丈島のマインドマップの作成
  - 8月3日、宝情報シートの作成
- c 9月から11月にかけて、文教大学国際学部の海津ゆりえ教授によるフェノロジーカレンダーづくりのためのオンライン講義を実施した。分類・整理した項目にイラスト、写真を添え、カレンダーとして分かりやすく表現するための装飾を実施した。その後、カレンダー完成に向けて取り組んだ。
- d 完成したカレンダーを基に、島内小中学校及び東京都立大学学生に対しては対面発表、都内高等学校及び羽村市立小学校はオンラインにて発表活動の実施を予定している。

## 11 目標の進捗状況、成果、評価

管理機関及びカリキュラム開発等専門家と連携を図りながら、本校プロジェクトチームのメンバーが検証を行い、PDCAサイクルに基づいて改善を進めた。

### (1) 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

- ① 卒業時に生徒が修得すべき具体的能力の定着状況
  - a 全校アンケートの「島に戻って仕事をしたい」と考える生徒を増やす。  
初年度目標 40%、初年度実績 44%（本校アンケートより）
- ② 高校卒業後の地元への定着状況
  - b 卒業生に対する卒業後2年目のアンケートにおいて、島への就職を視野に入れている者を増やす。  
初年度目標 60%、初年度実績 調査未実施（感染拡大のため）
- ③ その他本構想における取組の達成目標
  - c 八丈町立中学校からの都立八丈高等学校への進学率を上げる。  
初年度目標 90%、初年度実績 90%（1月中進対調査結果から）
- (2) 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）
  - ① 地域課題研究又は発展的な実践の実施状況
    - a 地域開発に関するコンテスト受賞数。  
初年度目標 2、初年度実績 0（八丈学Ⅲ未実施のため）
  - ② 普及・促進に向けた取組の実施状況
  - ③ 島外学習での学校訪問数・テレビ会議を利用した交流の回数。  
初年度目標 12回、初年度実績 7回
  - ④ その他本構想における取組の達成目標
    - b フェノロジーカレンダー設置場所  
初年度目標 10回、初年度実績 15回
- (3) 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）
  - ① 地域人材を育成する地域としての活動の推進状況
    - a 全校アンケート調査にある「島を盛り上げていきたい」と答える生徒を増やす。  
初年度目標 30%、初年度実績 45%
  - ② その他本構想における取組の達成目標
    - b 全島民会議の参加者数の増加  
初年度目標 250、本年度は、新型コロナウイルス感染防止のため未開催

<添付資料>目標設定シート

## 12 次年度以降の課題及び改善点

### 〔課題〕

- ① 事業初年度ということもあり、管理職とプロジェクトチームに参加する6名の教員のみで、研究開発を進めた結果、教職員全体に取組を広げることができず、また、教員間でも関わりの姿勢に差があった。
- ② 年間授業計画や具体的な取組計画を試行錯誤しながら行っていたために、一貫性のある指導とならなかった。
- ③ フェノロジーカレンダーの制作に多くの時間を費やしてしまい、地域課題学習やカレンダー作成過程で、生徒が課題に感じた島の課題や、深めたいと思った事柄についての探究的な学習が十分にはできなかった。

[改善点]

- ① 全国サミットで、グループ討議を行った学校等と連絡を取り合い、オンライン会議を実施し、他校の取組の工夫や校内組織体制の構築、実施支援体制について、全職員に対し職員研修会等の場で報告を行い、本事業の取組を浸透させる場を設定し、教員が一丸となって取り組めるように共通理解を図る。
- ② 今年度の検証を実施し、運営指導委員、カリキュラム開発等専門家から助言を受けながら、年間指導計画や各授業の計画の見直しを図る。
- ③ 探究的な学びを深めるための手法を用いて、生徒が設定したテーマを探究のサイクルを用いて学習させ、コンソーシアムと協力して生徒の疑問を解消するなど、課題策の提案につなげる。

[担当者]

担当課	教育庁指導部高等学校教育指導課	TEL	03-5320-6845
氏名	宮崎 智	FAX	03-5388-1733
職名	統括指導主事	e-mail	S9000023@section.metro.tokyo.jp